

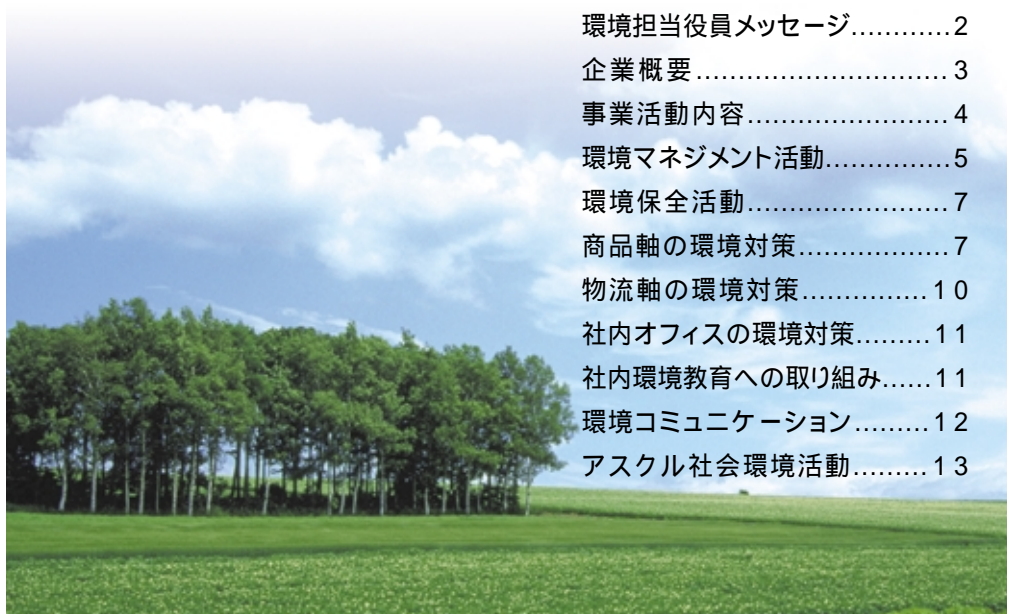
アスクル 環境報告書

2002年版

VOL.
1



INDEX

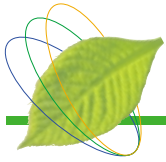


トップメッセージ.....	1
環境担当役員メッセージ.....	2
企業概要.....	3
事業活動内容.....	4
環境マネジメント活動.....	5
環境保全活動.....	7
商品軸の環境対策.....	7
物流軸の環境対策.....	10
社内オフィスの環境対策.....	11
社内環境教育への取り組み.....	11
環境コミュニケーション.....	12
アスクール社会環境活動.....	13

報告対象概要

1. 準拠した環境報告書ガイドライン
環境省 環境報告書ガイドライン (2000年版)
2. 対象年度
2001年5月21日～2002年5月20日
3. 報告対象事業の範囲
事業活動全般と商品の生産活動を除く配送・サービス提供の環境保全、改善の取り組み状況
4. 報告対象組織
本社e-tailing centerおよび物流センター(現在全国5ヶ所)の環境活動の取り組み状況
5. 次回発行予定
2003年8月予定
6. アスクール発行物について
発行資料をご希望の方は、各資料の問合せ部門に連絡ください。

発行資料名	問合せ部門	連絡先
会社案内	ソーシャル・リレーションズ	03-3522-8502
有価証券報告書	経営管理	03-3522-8608
事業報告書		
環境報告書	環境品質マネジメント	03-3522-8651



トップメッセージ

1993年、プラス株式会社内でわずか4人で始めたプロジェクト「アスクル事業推進室」からスタートしたアスクル事業は今年、10年目を迎えました。当初、自社製品だけ500アイテムを掲載したカタログは、その後お客様のご要望に沿って、他社製品の取り扱いに広がり、取り扱い分野も文具からOA・PC用品、家具、家電、生活用品、飲料など、オフィスライフに必要なさまざまな商材... 今日では12,000を超えるアイテムにまで拡大して参りました。

オフィスに必要なものを、お約束した時間に...アスクルはその名のとおり、事業開始当初から「時間を約束したサービス」を貫いてきました。こうして、名実ともにオフィスのワンストップショッピングを実現致しました。

この間、「アスクル株式会社」としてプラス株式会社から分社した1997年に、新たな経営理念を掲げました。

「お客様のために進化するアスクル」です。

オフィスで働くすべての方が、アスクルのお客様です。私たちが目指しているのは、お客様と社会にとって必要なものをもっとも望ましいかたちでご提供すること。そのためにアスクルは、常にお客様の声を聞きながら、商品・サービスの内容、システム、そして私たち自身をたえず進化させてきました。

進化を促すのは、たえざる「学習」だと思います。

昨年、アスクルは、カタログ上での環境ラベルの誤表示というミスを犯し、お客様をはじめ関係の方々にご迷惑をおかけしてしまいました。...この「事件」から、アスクルは、多くのことを学習させていただきました。

もとよりアスクルは、多くのパートナー企業と協力し、それぞれが得意な役割を分担して力を結集することで、お客様にとってよりよい「価値を創造していくこと」、これがアスクルの考える「社会最適」です。しかし、この度、これに加えてもうひとつの「最適」「環境最適」を価値創造の基盤とすべく、新たな取り組みを始めました。

まず最初に企業活動と社員共通の規範として、新たに「アスクル環境方針」を策定し、あらためて企業市民としての自覚と企業活動における位置付けを明確に致しました。そしてこの方針に沿って、適切な環境情報の提供、企業活動全域にわたる環境側面の洗い出し、グリーン購入法やエコマークなどの基準にかなった、環境負荷の少ない商品の品揃え拡大等に取り組み始めました。

地球環境の危機に直面し、循環型社会形成が急務な今、オフィス用品通販業としてのアスクルの環境ミッションは、オフィスのグリーン購入を全国に広げていくこと、との深い認識にたち、今後、カタログなどにおいて今まで以上にグリーン商品をクローズアップさせ、取り扱い品目を拡大するなどの環境施策に取り組んで参ります。

諸先輩企業には到底及ばない稚拙なレベルの「環境報告書」ではございますが、本年を、アスクルの環境への取り組み元年としてこれを公表し、今後、毎年定期的に発行して参ります。

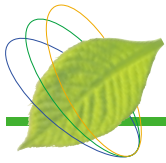
どうぞ関係各位からのアドバイスをいただき、学習しながら推進して参りますので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。

2002年8月

アスクル株式会社
代表取締役社長 (CEO)

岩田 彰一郎





環境担当役員メッセージ

2001年11月、アスクルでは新たに「環境品質マネジメント」チームを発足させました。

分社して5年、類のないビジネスモデルの推進と定着にひた走ってきたアスクルは、多くのお客様のご登録をいただき、商品・サービス両面で幅広いご愛顧をいただいております。

「お客様のために」「お客様とともに」...はアスクルがたえず自問する基本動作になってきています。しかし一方、「社会とともに...」はまだ充分とは言えません。とりわけ、「環境との共生」は、アスクル自身、今ようやく自問を始めたばかりです。

地球環境の急速な劣化を背景に、持続可能な発展を目指して循環型社会を形成していくこと、これは、アスクル企業活動に携わる私たちが、或いは一生活者である我々が等しく地球や子供たちの将来のために約束すべき崇高な履行事項です。

アスクルのビジネスモデルは、もとより多段階での物流機能が重複していた在来のバリューチェーンをシンプルにした新しい流通システムですが、これは、各段階で重複して発生していたさまざまなエネルギーや資源の無駄の抑制につながっています。

一方、アスクルにおける日々の企業活動の現場で発生するさまざまな環境側面は、その実体把握が始まったばかりです。グリーン購入法やエコマークなどの対象取り扱い商品の正確な把握にもとづくカタログ表記は、環境ラベル表示マニュアルの作成と並行して、本年3月のカタログから実施致しました。全社的な環境への取り組みは本年に入り、環境方針の設定にもとづいて、商品軸、物流軸、社内オフィス軸、社員環境意識の啓発、環境リスク対応など、順を追って推進しつつあるのが現状です。

今後、環境負荷の少ないグリーン商品の品揃え拡大、廃棄物の削減と有効利用、オフィスのグリーン購入促進など、社内外にわたる3R(リデュース、リユース、リサイクル)の実現を目標にして参ります。

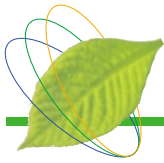
大切なことは、まず、195名の社員1人1人が、毎日の生活行動やオフィスでの業務行動の中で、「自分がしていることが、環境にどれだけの負荷がかかっているか?」という日常的な問いかけをしていくことです。身近なことから、小さなことから、できることから、アスクルは環境最適企業を目指し、行動して参ります。

2002年8月

アスクル株式会社
取締役環境品質マネジメント室長

久原義己





企業概要

会社概要(2002年5月20日現在)

創 立：1997年5月21日

本社住所：〒135-0053 東京都江東区辰巳3-10-1

電話番号：03-3522-8500(代表)

URL：http://www.askul.co.jp/

資本金：31億15百万円

売上額：924億64百万円

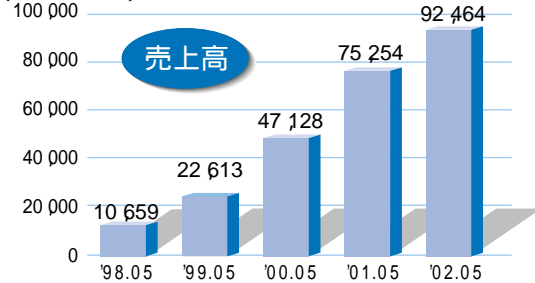
経常利益：39億45百万円

従業員数：195名(臨時雇用者含む)

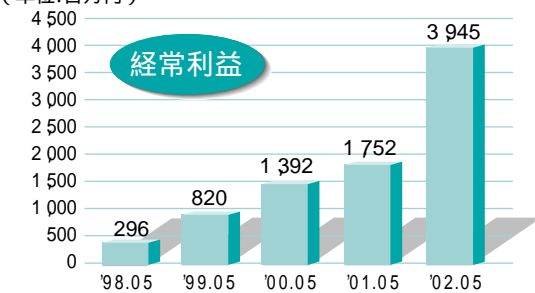
事業内容：

下記商品およびサービスにおける通信販売事業
文房具・事務用品・オフィス家具・什器備品・
インテリア用品、パソコン周辺機器・ソフトウェア・
書籍、食料品・日用雑貨品・清涼飲料水・衣料品・
家庭用電化製品、名刺および封筒の印刷作成・
伝票等の名入れサービス・オフセットプリント

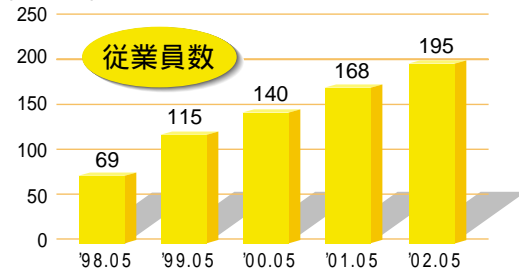
(単位:百万円)



(単位:百万円)



(単位:人)

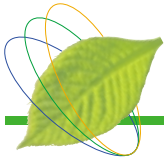


事業所

アスクルは、現在本社および5つの物流センターで運営を行っています。

事業所名	住 所	連絡先の電話番号
本 社 (e-tailing center)	東京都江東区辰巳3-10-1	03-3522-8500
東京センター	同 上(2002年6月30日にて閉鎖)	—
DCMセンター	東京都江東区青海2-7	03-3599-7503
横浜センター	神奈川県川崎市川崎区水江町5-1	044-280-3571
大阪センター	大阪府大阪市住之江区南港中6-6-23	06-6616-6811
仙台センター	宮城県仙台市宮城野区港4-1-2	022-388-7681
福岡センター	福岡県糟屋郡粕屋町大字阿恵347-1	092-626-2161

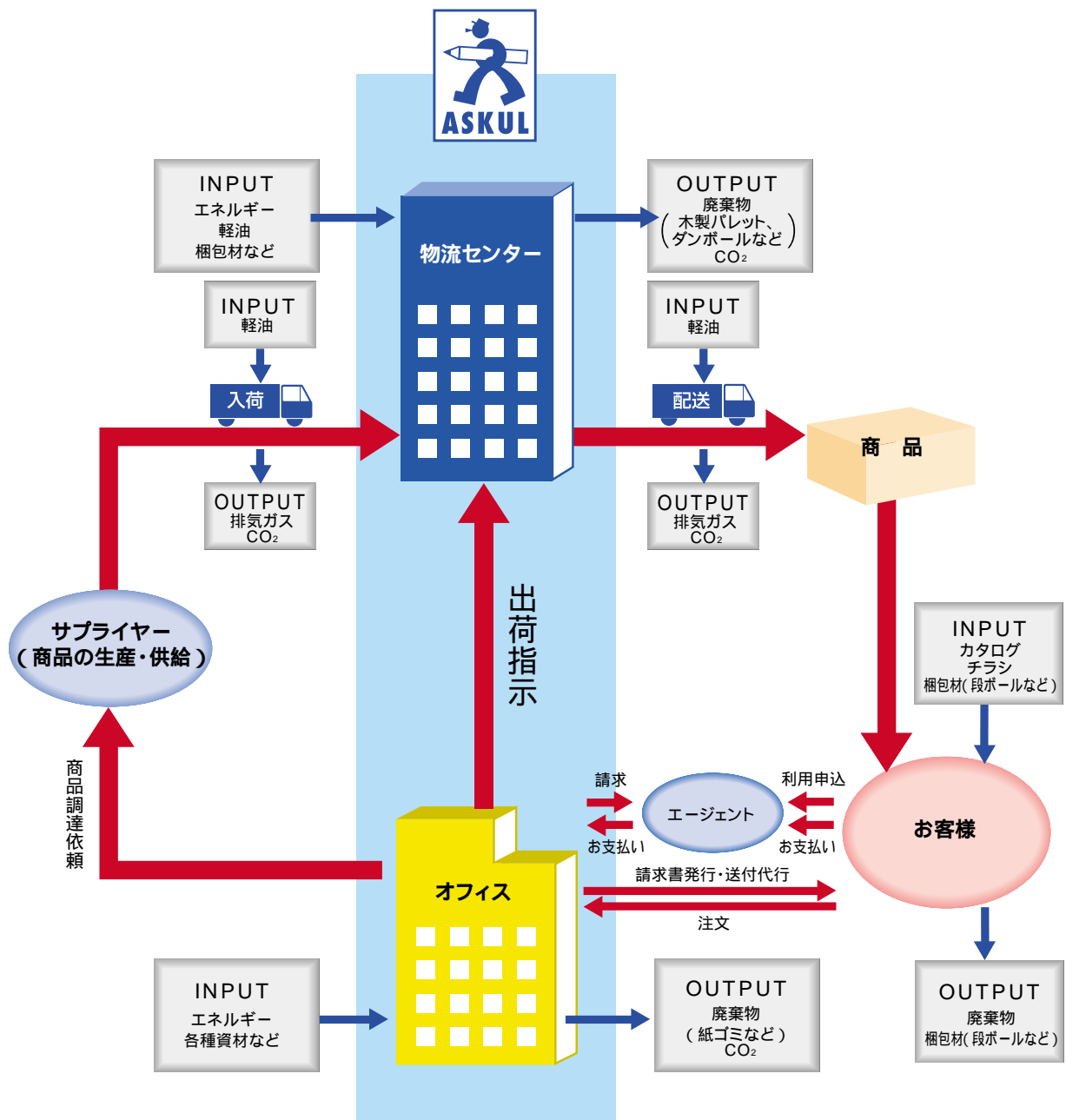
トピックス | 2002年4月に東京都江東区青海に「DCM(デマンド・チェーン・マネジメント)センター」を新設し、江東区辰巳の「東京センター」より物流機能を移管、同年4月20日より稼働しました。これに伴い、東京センターは同年6月30日に閉鎖し、現在に至ります。

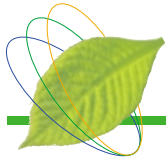


事業活動内容

アスクルは、従業員30人未満の中小事業所を主な販売対象として、ファクシミリおよびインターネット経由の注文によるオフィス関連用品(12,500品目)の配送サービスを行っています。また、アスクルのビジネスモデルは、取り扱い販売店(エージェント)が新規のお客様開拓、代金回収および与信管理を担当しています。配送サービスエリアは全国(沖縄・離島を除く)であり、翌日配送を行っています。物流センターの周辺地域は当日配送を行っており、北海道地域の一部は翌々日配送で対応しています。

環境側面から見た事業フロー





環境マネジメント活動

アスクルの環境マネジメント活動は、カタログの環境ラベル誤表示問題を契機として、2001年11月21日に社長直轄部門の環境品質マネジメント組織を新設することから始めました。2002年2月6日の取締役会にて環境方針を決定し、「できることから行動を起こす」指針としました。環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の2年後の認証取得を、活動目標としています。また、事業活動における環境会計の集計システムを、構築して参ります。

アスクル環境方針の決定

下記の環境方針は、社内外での共有を図ることを目的に、本年3月に全社員に発表し周知させたほか、主要サプライヤー120社の方々をお招きし、グリーン商品の更なる開発促進のお願いをしました。

環境方針は、「お客様のために進化する」というアスクルの基本理念を、「環境最適」の大概念の中で実現していくべきもの、と位置付けています。

アスクル環境方針

(1) 循環型社会の一員として、環境経営を
実践することで、「お客様・社会とともに
進化する」アスクルを実現すること。

→ 企業市民としてのアスクル

(2) 環境負荷の少ない企業活動と商品・
サービス提供を通して、21世紀最大のテーマ
である環境問題の解決の一助に、できること
から貢献していくこと。

(エコロジーとエコノミーの共存)

→ アスクルの企業活動の意味

(3) アスクルの社員、アスクルに関わる
1人1人が、実生活においても、環境との融合
に深い理解と行動が示せるようになること。

→ 一市民としてのアスクルズ

(2002年2月6日決定)

カタログにおける環境ラベル誤表示について
アスクルは、2001年の秋・冬号カタログ上での環境ラ
ベル表示において、多くの表示ミスを犯しました。誤表
示を犯した環境ラベルは、エコマーク商品、グリーン購
入法適合商品、グリーン購入ネットワーク(GPN)デー
タブック掲載商品、グリーンマーク商品などです。

誤表示の内容は、本来、認証機関の認定を受けて
いなかったり、法基準に適合していない商品を、認定品・
適合商品として誤って記載してしまったこと、お客様の
混同を招きかねないほざらわしいカタログ表記となった
こと、認証機関の指定に沿った表記方法を逸脱した点
などでありました。

本件に関して、お客様をはじめ環境省、財団法人日
本環境協会、グリーン購入ネットワーク、財団法人古紙
再生促進センター各位に、大変ご迷惑をおかけ致しま
した。直ちに、新規のお客様への同カタログの送付を
中止し、廃棄処分することとしました。また、配布済みカ
タログをお持ちのお客様には、お詫びと訂正文、並びに
正誤表を配布致しました。

環境ラベル情報の内容確認を担当部門が十分に
実施していなかったこと、カタログ制作過程で表示マ
ニュアルが活用されなかったなど、表示チェック体制に不
備があったこと、環境に関する法遵守への意識が全
社的に希薄だったことなど、アスクルでは経営トップから
関係担当者に至るまで、本件を深く反省致しました。反
省に基づき、下記の施策を遂行致しました。

環境問題に対する社員の意識改革、環境担当部門
の強化、カタログ制作フローの見直しなどの再発防
止策を策定し、直ちに実行致しました。

環境方針を策定し、環境経営に向けて積極的に取
り組む姿勢を明確に致しました。

また、現在、下記施策を遂行中です。

社外の有識者などのご指導を仰ぎながら、環境保全型
商品の表示のみならず、環境問題全般に関する社内
推進体制を強化するとともに、再発防止に向けた表示
管理マニュアルを作成し、徹底を図っています。

アスクルでは2002年を環境経営元年とすべく、アスクル
の環境保全活動を、商品軸、物流軸、社内オフィス軸の
3つの軸より実態把握し、改善目標を策定します。

今後はさらに、社内外への環境啓発、環境リスクの
ヘッジ、社会貢献活動などについても具体的に取り組
んで参ります。

アスクルでは、環境ラベル誤表示の反省を契機に、
オフィスのグリーン購入の促進と、環境負荷の少ない事
業活動に積極的に取り組んで参ります。

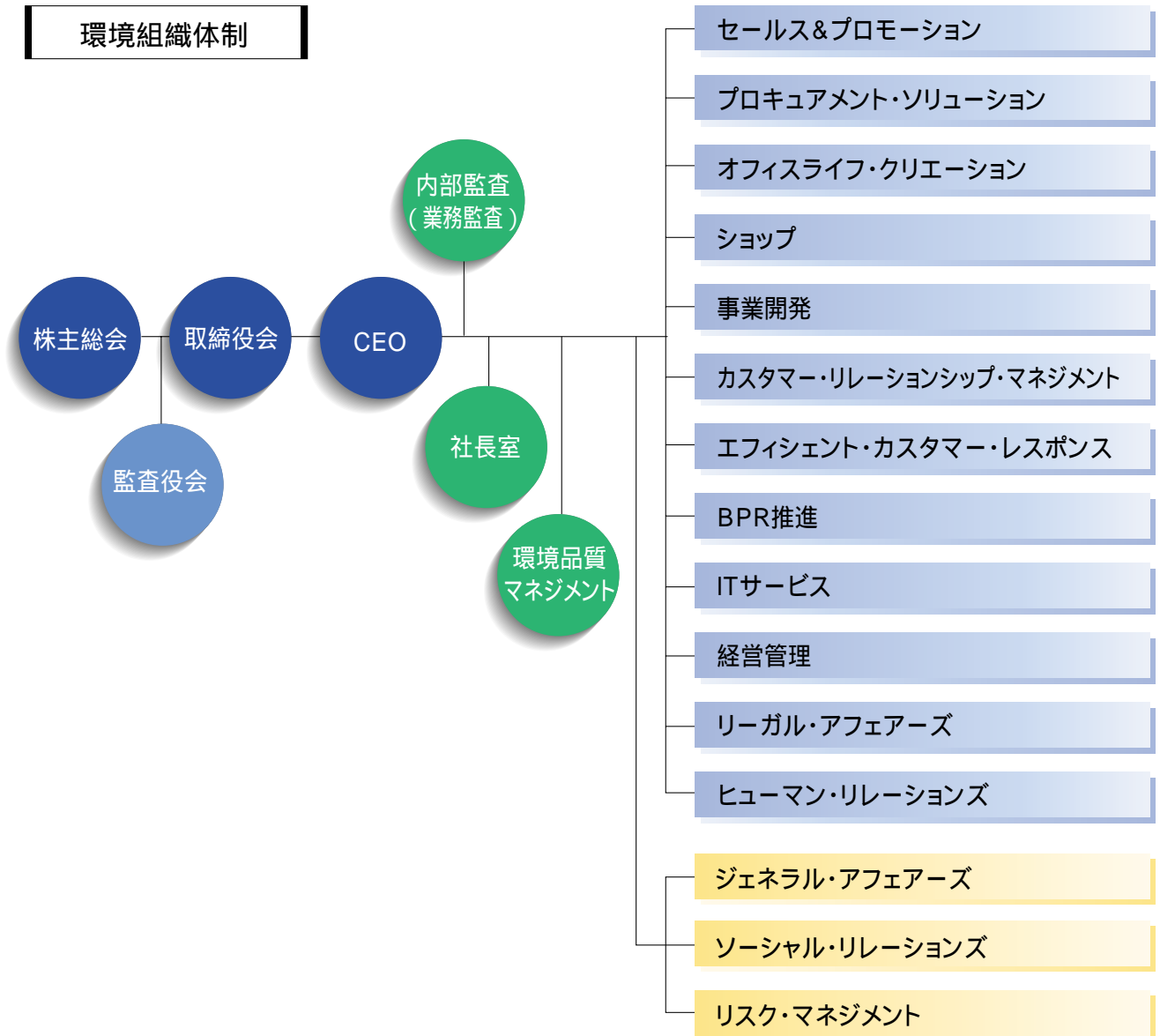
環境マネジメント組織について

2001年11月に環境品質マネジメント組織を発足させました。環境施策はトップダウンで推進すべきと考え、社長直轄の組織とし、全社の環境活動の立案、調整、指示を行っています。

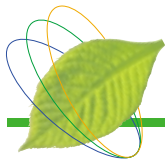
また、2002年4月、社外専門家を環境顧問として招聘し、今後の環境経営を正確かつ円滑に推進して

いくこととしました。環境顧問は、アスクル環境経営の体現にあたって専門家の立場から、経営トップの環境リーダーシップおよび環境活動全般に関する監査、社員の環境意識啓発と環境知識の学習、環境マネジメントのコンサルティングなどを行います。

環境組織体制



(2002年7月現在)

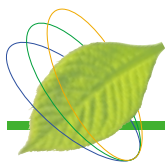


環境保全活動

アスクルの環境保全活動は、事業活動を商品軸と物流軸の2つに分け、自社オフィスの環境整備と合わせて3つの機軸を設定しました。各機軸に担当者を設け、環境負荷の大きな課題から、その実態を把握し、順次対策を実施します。

アスクルの環境保全活動

活動分野	活動軸	活動項目
事業活動	商品軸	アスクルの採用している環境表示 グリーン商品取り扱いの現状 アスクルのグリーン商品政策 アスクルグリーン商品リスト グリーン商品購入管理の円滑化
	物流軸	物流センターの廃棄物削減対策 省資源梱包 物流センターにおける省エネルギー
社内環境活動	社内オフィス軸	社内廃棄物の分別回収



商品軸の環境対策




オフィスライフ・クリエーション ネットワークリーダー 青木 宏彰

中小事業所を中心としたオフィスにおけるグリーン購入の促進は、今後のアスクルの重要な使命との認識にたつて、カタログ掲載商品に占める環境負荷の少ない商品(グリーン購入法適合商品やエコマーク商品、グリーン購入ネットワークデータブック掲載商品など)の品揃えをさらに拡充するとともに、広告媒体やカタログでの紙面を活用し、グリーン商品の啓発・普及に全力をあげて参ります。

アスクルの採用している環境表示

アスクルのカタログで取り扱うグリーン商品には、以下の3つの環境表示に係わる商品を指します。

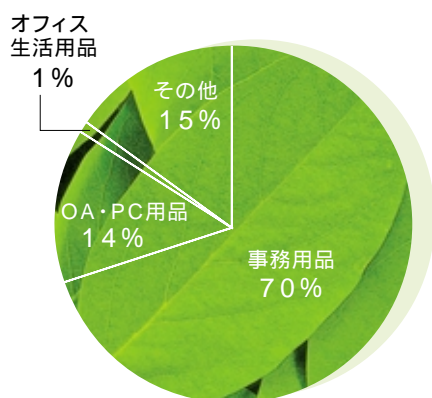
環境表示	内容
グリーン購入法	グリーン購入法の正式名称は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」で、環境負荷の少ない商品の購入と情報提供を通じた持続可能な社会の構築を目的とし、2000年5月に公布(2001年4月施行)されました。グリーン購入法適合商品とは、グリーン購入法の第6条に定められた特定調達品目およびその判断基準に合致した商品です。 URL ▶ http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/g-law/index.html
エコマーク 	エコマーク事業は、1989年以来、財団法人日本環境協会が実施しています。 この事業は、私たちの日常生活に伴う環境への負荷の低減などを通じて環境保全に役立つと認められる商品に「エコマーク」をつけることにより、商品の環境側面に関する情報を広く社会に提供し、環境にやさしくありたいと願う消費者による商品の選択を促すことを目的としています。エコマークの対象となる商品は、基本的に次の要件に該当し、これを消費者に推奨することが環境保全のために適切なものが選定されます。 (1) その商品の製造、使用、廃棄などによる環境への負荷が、他の同様の商品と比較して総体的に少ないこと。 (2) その商品を利用することにより、他の原因から生ずる環境への負荷を低減することができるなど環境保全に寄与する効果が大いこと。 URL ▶ http://www.jeas.or.jp/ecomark/
GPN データブック 掲載	グリーン購入ネットワーク(GPN)とは、グリーン購入(環境に配慮した商品)の取り組みを推進するために1996年2月に設立された、企業、行政、消費者で設立されたネットワークです。全国のさまざまな企業や団体が同じ購入者の立場で参加し、2002年6月現在、会員数は2600団体を超過しています。グリーン購入のためのGPNデータブック掲載商品とは、グリーン購入ネットワーク(GPN)が発行する『グリーン購入のためのGPNデータブック』に当社の判断で選んで掲載している商品です。同データブックは、GPNが掲載商品を推奨するものではなく、商品選択の際に比較可能な環境データを提供するものです。 URL ▶ http://www.gpn.jp/

グリーン商品取り扱いの現状

アスクルの取り扱い品目は12,500(2002春・夏号カタログ)であり、そのうちグリーン商品の取り扱い品目は2,072品目です。商品カテゴリー別のグリーン品目の構成比率は、以下の通りです。2002春・夏号カタログのグリーン商品拡大は、

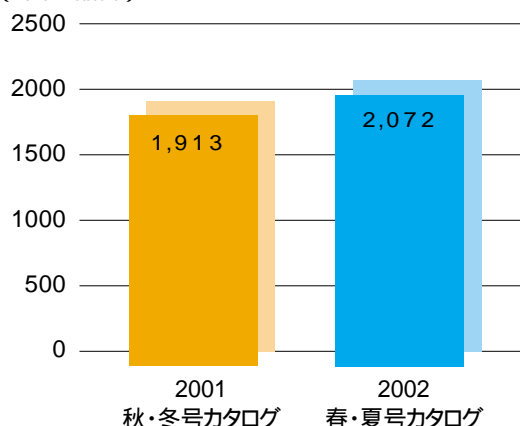
2001秋・冬号カタログに比べて159品目の増加となっています。今後も引き続き、お取引引きいただいているサプライヤー様のご協力をいただき、グリーン商品の取り扱い品目および売上高の増加を図ります。

商品カテゴリー別グリーン商品の割合



グリーン商品の取り扱い品目の増加状況


(単位:品目)



品目別の各区分に含まれる商品カテゴリーは、次のとおりです。

- (1)OA・PC用品:OAサプライ、OA用紙、ビジネスマシン、メディア、PC用品など
- (2)事務用品:ファイル、ノート、紙製品、筆記用具、文具・事務用品、オフィス作業用品など
- (3)オフィス生活用品:飲料、食品、飲料雑貨、生活雑貨など
- (4)その他:電化消耗品、オフィス電化製品、オフィス家具、インテリア、プリントサービス、値引きなど

アスクルグリーン商品リスト

アスクルでは年に2回発行するカタログの別冊として、P.7記載の環境表示に係る商品を一覧にした「アスクルグリーン商品リスト」を1冊にまとめ、カタログとともにお届けしています。また、カタログにはアスクルグリーン商品リストに記載されている商品に対して、「グリーン商品リスト掲載品」を付記しています。

アスクルグリーン商品リストの発行は、今後もカタログ発行と同時に、お客様のグリーン商品の購入にご活用いただけるよう、分かりやすいリストの作成を行っていきます。

アスクルグリーン商品リスト

カタログ



プラス ボックスファイル(100%再生紙)

※(ボックスファイル(ペーパータイプ)ベーシックカラー-A4)

※寸法/縦260×横315×背幅100mm@材質/ファイルカード紙(100%再生紙)

色別/型別	ブルー	イエロー	グリーン	ピンク	グレー	M型	価格(税別)
A4 1冊	019-165	019-174	019-183	019-192	019-209	¥910	¥222

※2001年秋・冬号カタログ商品名称

アスクルグリーン商品リスト

10-1 5909 頁	お申込番号	会社名	商品名(カタログ商品名)	100%再生紙	環境に配慮している点
150	019174	プラス	ボックスファイル(100%再生紙) A4 イエロー	●	100%再生紙を使用しています。
150	019183	プラス	ボックスファイル(100%再生紙) A4 グリーン	●	100%再生紙を使用しています。
150	019209	プラス	ボックスファイル(100%再生紙) A4 グレー	●	100%再生紙を使用しています。
150	019182	プラス	ボックスファイル(100%再生紙) A4 ピンク	●	100%再生紙を使用しています。
150	019165	プラス	ボックスファイル(100%再生紙) A4 ブルー	●	100%再生紙を使用しています。

アスクルのグリーン商品政策

グリーン商品の取り扱い拡大に向けて、お取引先からいただいているサプライヤー様に対して、本年4月にサプライヤー会議を開催し、環境方針の発表およびアスクルカタログの社会的責任について説明し、正確な環境側面情報の提供のご協力とアスクルの環境対策のご理解をいただきました。

今後、環境側面を考慮したグリーン商品政策は、まず今年度、アスクルのグリーン商品選定基準を作成し、これにもとづき、サプライヤー様に環境負荷の少ない商品提案を行っていただくことで、お客様のグリーン商品の選択肢を拡大していくことを目指します。グリーン商品の取り扱い品目を増加していくことは、経営理念である「お客様のために進化する」ことの重要な要素として位置付けて参ります。

また、オフィスでお使いいただく多くの商品が、文具やコピー用紙を中心とした「紙製品」であることに鑑み、アスクルでは、紙パルプのもととなる森林資源について地球環境保全の観点から、右記のアクションを推進して参ります。

(1) FSC認証について

アスクルは、今後、FSCの森林認証を受けた紙製品の取り扱いを検討して参ります。

FSCとは、森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) の略です。同協議会は、世界の森林が環境保全の観点から適切に管理されていくことを目的として、1993年にカナダで25ヶ国の代表者により設立された非営利の会員制組織です。独立した第三者機関が、森林の管理がさまざまな環境基準を満たしているかどうか評価し、認証していく「森林認証制度」を実施し、認証ラベル付けを行っています。対象は、世界中全ての森林におよびます。

(2) アジア地域における森林管理の促進

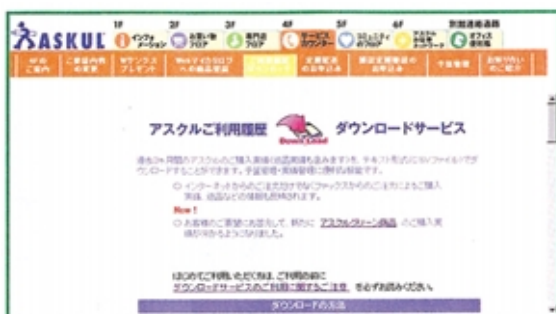
アスクルが販売している輸入コピーペーパーの原料である木材パルプの調達で、木材産地の東南アジア地域において、いっそう正しい森林管理のもとに行われよう、現地製紙メーカーとの森林管理に関する情報交換を密に行い、より適切な森林管理を求めて参ります。

グリーン商品購入管理の円滑化に向けて

アスクルではお客様に対して、オフィスのグリーン商品購入がいっそう円滑に管理・運営できるように致しました。

(1) ご利用実績ダウンロードサービス

ホームページ上に「アスクルグリーン商品ご利用実績ダウンロードサービス」を設置し、お客様がアスクルで購入いただいた商品のグリーン購入実績が、直近3ヶ月間ダウンロードできます。ダウンロードしたデータは、3つの環境ラベル別集計や会社の予算管理の資料としてご利用いただけます。



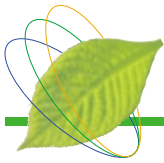
(2) 請求書への購入アイテムと金額の表示

毎月お客様に発行する請求書の裏面に、お客様のグリーン商品購入実績を記載しています。

記載内容

3つの環境ラベル別購入金額の総計とアイテム数
4つの商品カテゴリー別合計購入金額とアイテム数
4つの商品カテゴリー別グリーン商品購入金額とアイテム数

グリーン商品別集計		グリーン商品別集計		グリーン商品別集計	
購入金額	アイテム数	購入金額	アイテム数	購入金額	アイテム数
100%	100%	100%	100%	100%	100%
70%	70%	70%	70%	70%	70%
50%	50%	50%	50%	50%	50%
20%	20%	20%	20%	20%	20%
合計	合計	合計	合計	合計	合計



物流軸の環境対策



エフィシエント・カスタマー・レスポンス ネットワークリーダー 鈴木 博之

物流業務は、現在全国5ヶ所の物流センターでそれぞれ12,500品目の商品管理および配送業務を行っています。お客様にお届けする梱包形態だけでなく、物流業務で発生する廃棄物の排出量の実態把握を今年度行うとともに、その改善目標と削減策を設定し、実施して参ります。また、廃棄物をリサイクル資源として、自社に還元する対策を進めます。

廃棄物の削減と再利用について

物流センターで発生する「木製パレット」、「段ボール」は、「資源ゴミ」として3R(リデュース、リユース、リサイクル)にもとづいた考え方で処理を実施しています。今後、各物流センターで排出される廃棄物について、排出状況の把握を行い、さらに処理方法を改善して参ります。

(1)木製パレット

サプライヤー様のお名前入り木製パレットは、該当サプライヤー様への返却を行い、国内製紙メーカーのパレットは製紙パレット回収機構に引き取りを依頼、その他のパレットは国内リユースルートを開拓し、循環使用を行っています。リユース不可能なパレットは、木材チップ工場経由でリサイクル化されています。

(2)段ボール

商品が物流センターに搬入された際の段ボールは、物流センター内で集積後、お客様用の配送用段ボールにリサイクルを行うシステム構築を行い、年内の運用を目指しています。

(3)カタログ

お客様のお手元に新しいカタログをお届けした後、古いカタログを回収させていただくサービスを、地域限定で開始する予定です。

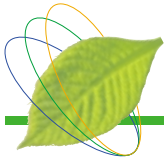
省資源梱包

お客様に商品をお届けする際に、段ボールを使用しない「省資源梱包」を、当日配送エリアおよび神奈川県、静岡県、千葉県、名古屋市内で実施しています。小さな商品は再生紙の袋、大きな物はポリエチレン袋でお届けします。商品を取り出した後、再利用できる丈夫な作りとなっています。



物流センターにおける省エネルギー

全国5ヶ所の物流センターのエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んで参ります。



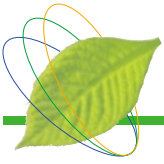
社内オフィスの環境対策

社員の足元であるオフィスの環境整備は、「環境意識啓発の原点」と認識し、重点課題と位置付けています。

今年度、オフィス廃棄物の分別回収の徹底、使用物品類およびエネルギー使用量などの環境負荷の実態把握、改善を実施して参ります。また、社内で使用する事務用品のグリーン購入基準を策定し、オフィス内のグリーン購入を推進して参ります。

オフィス廃棄物の分別回収について

廃棄物対策に関する考え方は、物流センターでの廃棄物対策と同じであり、事業活動から出る廃棄物を「資源物」と考え、再生利用が可能な分別回収を行っています。今後は、廃棄物削減対策として、分別種類を増やして廃棄量の減少に努めて参ります。



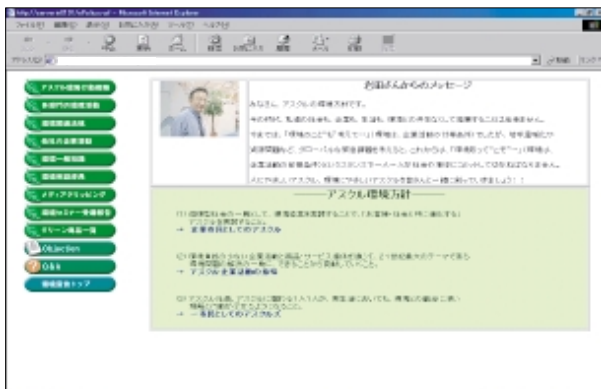
社内環境教育への取り組み

環境教育は、社員がいつでも環境情報を習得できる体制づくりが必要であると考えます。そこで、社内のイントラネットを利用した情報伝達と、関連部門を対象とした勉強会や会議を行って環境対策の必要性を伝えました。今後は、各部門に環境活動リーダーを定め、環境施策の円滑な運営・実施を推進していきます。

社内イントラネットの活用

社員の環境問題への意識向上と啓発の場として、社内イントラネットに環境コンテンツを設け、アスクル環境方針をはじめ、環境用語辞典、外部の環境セミナーの報告、各社の環境戦略など、約10のコンテンツを設けています。

環境コンテンツ

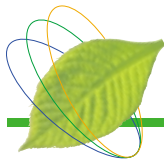


環境学習の実施について

アスクル物流スタッフ、各物流センター長を対象に、ISO14001の概要の学習、廃棄物対策の勉強会を実施し、商品を入荷してからお客様にお届けするまでの全ての過程で発生する環境側面について見直しを始めました。

また、廃棄物処理及び清掃に関する法律の解説マニュアル、全物流センターの所在地の自治体条例一覧を作成、配布し、行政の対応を各物流センター長に説明し、廃棄物対策の重要性を啓発しました。

今年度は、役員および全社員に対して環境課題の周知・理解を目的とした勉強会を開催し、各部門の業務行動に即した環境活動を指導して参ります。



環境コミュニケーション

アスクルの環境コミュニケーションは、アスクルの環境活動を知っていただくことはもとより、お客様の声に耳を傾け、お客様の要望をアスクルの事業活動に反映していくことが、大変重要であると考えています。

アスクルお問合せセンター

アスクルは、お客様からのお問合せの窓口として「アスクルお問合せセンター」を設置し、商品や配送、各種サービスや環境などに関するお問合せについての対応を行っています。お客様のお問合せ内容は「CTシステム」

に入力され、内容を蓄積します。このデータは商品開発やカタログ表記などの改善の際に、お客様の「声」として反映しています。



アスクルからお客様への情報提供

(1)アスクルグリーン商品リスト

カタログと一緒にお届けするアスクルグリーン商品リストでは、グリーン商品だけでなく、お客様のオフィスでの環境対策の必要性や環境表示に関する情報提供を行っています。

今後もアスクルからの環境推進メッセージとして、本リストを活用した情報提供を継続して参ります。

提供内容

循環型社会形成のための法律体系の案内
3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動について
エコマークの啓発
オフィスでできる環境活動について

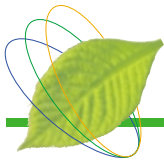


(2)ワンダーマート

月刊カタログの「ワンダーマート」2002年6月号では、「6月は環境月間」として、お客様の企業で実際に行っている環境活動の紹介やグリーン商品を紹介し、「オフィスの環境」を考えていただく機会を設けました。

環境月間での環境配慮商品の紹介は、今後も実施してグリーン商品の購入拡大と環境意識の向上をお手伝い致します。





アスクル社会環境活動

環境活動に長年取り組んでおられる社外の環境活動諸機関との連携をとおして、アスクル環境経営の幅を広げて参ります。

白色度70クラブへの参加

環境負荷の少ない「白色度70%」¹のコピー用紙の普及拡大を目指すことで、紙ゴミのリサイクルをいっそう活発にし、循環型社会形成に資する目的で結成された「白色度70クラブ」に参加しました。

全国多数のオフィスでアスクルのコピー用紙が使われ

ておりますが、今後、リサイクルコピー用紙・白色度70%コピー用紙の普及拡大を目指して参ります。本報告書はすべてリサイクル用紙で作成しました。P.3～P.12は白色度70%、それ以外のページは白色度80%を使用しています。白さの違いを比較してください。

¹「白色度」とは紙の白さを、光の反射量の割合であらわした値です。白色度70%のコピー用紙は、新聞古紙を主原料として作られますので、古紙のリサイクルを促進し、ゴミの減量につながります。また、漂白工程も不要なので、使用エネルギー（＝環境負荷）が少なくて済みます。

URL ▶ <http://www.tgn.or.jp/office-c/>

WWFジャパン（財団法人 世界自然保護基金ジャパン）への入会

世界90ヶ国以上の国々で、自然保護活動を展開している世界最大の民間自然保護団体であるWWFジャパンに入会しました。WWFは、世界の生物多様性を守る、再生可能な自然資源の持続可能な利用が行われるよう

にする、環境汚染と浪費的な消費の削減を進めることなどを使命としています。

アスクルは本団体に入会することで、今後いっそう幅広い視野で環境問題に取り組めるようにして参ります。

URL ▶ <http://www.wwf.or.jp/>

グリーン購入ネットワーク(GPN)への入会

グリーン購入ネットワーク(GPN)は、グリーン購入(環境に配慮した商品)の取り組みを推進するために、1996年に設立された企業、行政、消費者で設立されたネットワークです。全国のさまざまな企業や団体が同じ購入者の立場で参加し、2002年6月現在、会員数は2600団体を

超えています。

アスクルはグリーン購入ネットワークが発行している「グリーン購入のためのGPNデータブック」を環境表示として採用し、お客様に情報提供を行うと同時に、ネットワークメンバーとしてグリーン商品の購入を図って参ります。

URL ▶ <http://www.gpn.jp/>

「アスクル環境報告書2002」へのご意見・ご感想

アスクル環境報告書をご覧いただき、ありがとうございました。ぜひご意見・ご感想をお聞かせください。お寄せいただいたご意見・ご感想は次回環境報告書の改善の参考にさせていただきます。お手数ですが、下記の質問事項にご回答の上、FAXいただければ幸いです。

Q1. 本報告書をお読みになってアスクルの環境への取り組み状況について、よくわかりましたか？

1. とてもよくわかった 2. 一応わかった 3. よくわからなかった 4. どちらでもない

コメント欄

Q2. 本報告書の内容のうち、印象に残ったもしくはご興味を持った項目はありましたか？

選択項目の該当部分に、 をご記入ください。

ページ	項目	選 択 項 目				コメント欄 その他、要望などがございましたら、ご記入ください。
		とてもよくわかった	わかった	よくわからなかった	どちらでもない	
P.1	トップメッセージ					
P.2	環境担当役員メッセージ					
P.3	企業概要					
P.4	事業活動内容					
P.5	環境マネジメント活動					
P.7	環境保全活動					
P.7	商品軸の環境対策					
P.10	物流軸の環境対策					
P.11	社内オフィス軸の環境対策					
P.11	社内環境教育への取り組み					
P.12	環境コミュニケーション					
P.13	アスクル社会環境活動					

Q3. 本報告書についてのご意見・ご感想、さらに知りたい内容がありましたらお聞かせください。

コメント欄

ご協力、ありがとうございました。差し支えなければ、ご記入ください。

ふりがな お名前		性別 男 ・ 女	ご年齢 歳	E-mail	
ご住所	〒			アスクルのご利用	有 ・ 無
ご職業 お勤め先		連絡先(登録) 電話番号	()		



お問合せ先

アスクル株式会社

環境品質マネジメント

〒135-0053 東京都江東区辰巳3-10-1

TEL 03-3522-8651

FAX 03-3522-0875

URL <http://www.askul.co.jp/>